

[目 次]

2002・4

		ページ
EUREKA	非平衡凝縮理論から読みとる隕石物質の生成環境	田中今日子 173
〈研究紹介〉		
天球儀	アフリカ・ザンビアにおける	高橋典嗣 179
〈読物〉	2001年日食・日本学術観測団の観測	湯元清文 一本 潔
	500号に達した「天文ニュース」とその背景	長 沢 工 188
シリーズ	《海外研究室事情(28)》	
	INTEGRAL Science Data Center (ISDC)	
	ジュネーブ大学附属ジュネーブ天文台	
	INTEGRAL サイエンス・データ・センター	海老沢 研 194
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書	矢治健太郎 196
月報だより		198

[表紙説明]

上 (本文180ページ, 図2)

2001年6月21日の皆既日食時の太陽コロナ。太陽活動極大期の典型的なコロナの形状を示しているが、太陽縁辺に、大きな活動領域が見られなかった。 (撮影:佐山敬悦)

下 (本文185ページ, 図14)

高温プラズマに伴うコロナ中の微細磁気ループ構造及び温度密度構造の解析のため、可視域で最も強度の強い、530.3nmのコロナ輝線 (FeⅢ, green line) と白色光により、太陽リムの西側でコロナの撮影を行った。図の左側は白色光とコロナ輝線の空間分布、右側は強度に対してOMCアルゴリズム (MadMax)によりループ構造を強調した画像である。 (撮影:大越 治/画像処理:武田 秋)

(EUREKA 参照)